

# 健康通信 しずおか

No.45

2016  
2月

TRANSITION TO HEALTH (045)

## ワクチンの真相 ③

～ ワクチンに関するテレビ番組の大罪 その1 ～

### はじめに

季節性インフルエンザの予防接種について、2006年の米国での或る統計では、**医師・看護師の70%が接種を拒否**、他の**医療従事者**でも62%が**拒否**していた。( *Journal of General Internal Medicine(Feb. 6, 2006)* )しかし、日本の医療機関では、社会正義と言わんばかりに職員全員に接種を強要しているところがある。テレビの健康情報番組では、ワクチンを盛んに勧奨している。造ったワクチンを使ってもらわないとメーカーが困るというのは分かるが・・・

### テレビ番組「インフルエンザ検定」の嘘と矛盾

今年1月5日のテレビ朝日系の番組「林修の今でしょ！講座」を録画した。その中の『インフルエンザ検定SP』の内容を検証してみた。『**名医が作った問題 インフルエンザ検定 解けば解くほど予防法がわかる 厳選17問**』と題



し、国立感染症研究所のH先生が「基礎知識編」の問題を、某クリニック院長のI先生（西洋医学と東洋医学の療法に精通）が「予防法編」の問題を担当していた。

この検定SPの解答者として、ジャニーズ事務所のSMAPのメンバーである草彅剛君（41歳）が解答者として出演していた。番組の中では紹介されてはいなかったが、実は、草彅君は31歳の時、インフルエンザでダウンし、1日だけだが入院した経験があった。その後毎年、ワクチンを接種していたものの、何度もインフルエンザに感染してしまっていたらしい。



草彅君は、番組の冒頭、「**予防接種しているのにかかってしまって**」「**毎回予防接種している意味があるのかなあ？**」「**予防接種すると必ず調子が悪くなる**」「**結構イライラしていますよね**」等々訴えていた。

この草彅君の発言は、**ワクチンの真の姿（無効・副作用）**を象徴していると思った。季節性インフルエンザワクチン、即ち、過去に流行った古い型（危険な致死的新型ウイルスでもなく、野生動物が保有する未知のウイルスでもない！）の“**不活化&コンポーネント**”ワクチン、すなわち、弱毒ではなく“**死滅**”した、ウイルス粒子丸ごとではなく“**部分的**”な、そんなワクチンが効かないことは、日本人の多くの人にとっては非常識かもしれないが、ウイルス学を学んだ者・医学を学んだ者にとっては常識であり、**感染し易く、かつ重症化しやすい**のは当たり前である。このことについては、健康通信しずおか No.43（2015年12月）に詳述したので、今一度読んでいただきたい。しかし、番組は巧妙に視聴者および草彅君を洗脳（？）し、途中「じゃあ、やっぱり（予防接種を）やっというてよかったんですね」と、素直な（？）草彅君は“ワクチン接種によって症状が軽く済んでいたんだ”と、納得させられてしまっていた。

公益財団法人 静岡県産業労働福祉協会

〒421-0113 静岡市駿河区下川原6丁目8番1号

TEL054(258)4855(代) FAX054(258)4403

<http://www.kenshin-shizuoka.net>

E-mail: [info@kenshin-shizuoka.net](mailto:info@kenshin-shizuoka.net)

それでは、この『インフルエンザ検定SP』の“嘘”と“矛盾”についてみてみましょう。

## ★「予防接種を受ける大事な理由は？」・・・について

検定の【第6問】の冒頭、「予防接種を受けるのは、インフルエンザの感染を防ぐため」とあっさりと言いつつ（右 TV 画面）、「この感染を防ぐ目的以外で、予防接種を受けた方が良い大事な理由は何？」と出題された。これに対する正解は「インフルエンザにかかってしまった後、重症化するのを防ぐため」であった。その解説として「インフルエンザの『重症化』とは、ウイルスが体内で増殖しすぎて、肺炎や脳症などにつながってしまうことをいい、『重症化防止』には、ウイルスを『増殖させない』ことが大切である。そこで必要なのが『予防接種なのです』」と説明されていた。番組では、「生きているウイルスではなく、死んだウイルスを注射で体内に入れている」「ウイルス自体は死んでいるので体内で暴れたり増殖したりすることはない」と解説していたが、この「死んだウイルスを注射で」というところが真っ赤なウソである。“インフルエンザワクチンは、ウイルス粒子丸ごとではなく、エーテルを加えてウイルス粒子をバラバラに分解し、膜の一部分である HA（ハマグルチニン）という棘の蛋白質を取り出し、これをホルマリンで完全に不活化（死滅）したもの”を注射しているのである。以前話したが、ウイルスの HA 蛋白はヒトの細胞の中に入る時に働き、もう一つの NA 蛋白は、ヒトの細胞内で増殖した後、外に出る時に働くタンパクである。今、接種されているワクチンは、ウイルスを丸ごと使っていないので、正式には“インフルエンザ HA ワクチン”という。したがって、ワクチン接種によってできる抗体はウイルスに対する抗体ではなく、HA 蛋白に対する抗体だ。この抗体は血液中に存在する IgG 抗体であって、粘膜の IgA 抗体ではないので、鼻咽頭粘膜での感染は全く防止できない。また NA 蛋白に対する抗体でもないので、増殖を防ぐこともできない。したがって、「重症化を防げない」ことは、医学教育を受けた者ならば、いや、医学教育を受けていなくても、この私の説明で誰にでも十分理解できるはずだ。H先生も「血液の中に抗体があっても『ウイルスに攻撃が届かない』とはっきり述べ、『増殖して症状が出る』と、図を用いて明確に説明していた。しかし、番組の意図を酌んでか「かかった後の重症化をこの抗体が防いでくれる」と苦しい説明をしていた。テレビ局側は「『増殖させない』ために『予防接種』が必要」といい、H先生は「『ウイルスに攻撃が届かない』⇒『増殖して症状が出る』」、つまり、『増殖を防げない』と説明していたのである。この違いは、“矛盾”以外の何物でもないと思うが如何であろうか。

## ★「今病院で出される薬は ウイルスの増殖を抑える」・・・について

日本でインフルエンザ治療に用いられる“タミフル”“リレンザ”などの4種類の抗ウイルス薬は“NA 阻害薬”である。ヒトの鼻咽頭粘膜の細胞内で増殖したウイルスが外に出るのを阻止する薬である。番組は『ウイルスが飛び出して別の細胞で増殖するのを防ぐ』と説明し、「ウイルスの増殖がピークになる48時間以内に病院に行くのが大事」と強調していた。また、「増殖し過ぎる前に薬を使えば発熱期間が短くなる」とも説明していたが、タミフルは原則10歳から19歳には処方禁止の怖い薬である。インフルエンザ HA ワクチンは、感染を防げないばかりか、増殖も阻止できないから、“NA 阻害薬”が（ワクチンとセットで）使われるのである。ワクチンを打たずに、本物の季節性インフルエンザに感染して、免疫記憶・獲得免疫により、その後、何十年も罹らない人たちは大勢いる。“効きもしないワクチンを打ち、免疫力を下げ、感染してしまって抗ウイルス薬を飲む”という薬漬けは如何なものか。本来ワクチンとは“生きた弱いウイルスに感染させて免疫システムを強化するもの”。死んだウイルスの欠片では免疫システムを強化することはできない。ワクチン信者の皆さん、いい加減に目を覚まして！！ H先生は、スプレー式の罹らないようなワクチンを研究・開発中と話していたが、“生きたウイルスを弱めたもの”を直接鼻粘膜に噴霧するタイプのことであろう。

## ★ しかし、「予防法編」は有益であった

「（感染が疑われる時）20分に1回のうがい」「あいうべ体操」「口呼吸をやめる」「梅干し茶（梅酢ポリフェノール＋カテキン）」「起床直後の歯磨き（口腔ケア）」「ガムを噛んで唾液を出す」などは有益な予防法で、私も推奨する。

おわりに インフルエンザ予防に大切なのは、植物性の適切な栄養、良質な水、十分な睡眠、適度な運動、そして日光浴（活性型ビタミンDを造る）、これが大事である。決してワクチン接種などではない！！

